

全日本学生剣道選手権

平野が準優勝

「上段の構え」で躍進

大阪府立体育館(大阪)で7月23日に行われた全日本学生剣道選手権で、平野青地(文3・東福岡高)が準優勝に輝いた。昨年に続き、2度目の出場での決勝進出。専大勢の決勝進出は2004年大会準優勝の松本勝範さん(平17法)以来、13年ぶり3人目。地方ブロックを勝ち抜いた総勢170人を超える選手によって頂点を決める今大会。決勝まで計7試合を1日で戦い切った平野は「試合数が多く、終わった後はさすがに疲れを感じたが、試合以外はリラックスすることで体力温存を意識し

た。ベスト16を決める試合で一番納得できる勝ち方ができたため、気持ちで進んでいくつもり」と、躍進の要因を挙げた。平野は「上段の構え」の使い手である。これは一般的な中段の構えより素早く攻撃に移ることができるが、胴と小手の防御は弱くなるという一面を持つ。「上段の構えに変えてから勝てるようになった」と話す平野は「前の構えのままだったから、決勝には進めなかったら、決勝には進めなかったら、そもそも専大にもいかなかったかもしれない。上段の構えを勧め



「上段の構え」で攻撃の際をうかがう平野＝決勝戦

専大スポーツ

No. 377

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)で確認ください。専大スポーツ編集部 web (http://sensupc.web.fc2.com) 大会結果を配信しています。

バックを取り、ポイントを狙う柏田



フリー 57kg 柏田が2位

全日本学生レスリング選手権(8月28〜31日、世田谷区・駒沢体育館)で、フリースタイル57kg級の柏田直紀(文4・三次高)が2位に輝いた。準々決勝では同じ専大の荒木大貴(経営1・玉名工高)との同門対決となった。「練習でやっていた時とは違ってとてもやりづらく、全力を出し切れなかった」と振り返ったが、結果は7-1で快勝した。準決勝では、高校時代から負け続けてきたという山梨学院大・小柳選手を相手に振り切り、6-1で勝利した。今後の目標に関しては、「12月に行われる全日本選手権の参加資格を得たので、そこをいい成績を収めたい」と語った。グレコローマンスタイル85kg級では、松雪泰成(商2・星城高)が3位。女子では48kg級で中村未優(商1・埼玉栄高)が3位に入賞した。(谷田祐樹・法3＝写真も)

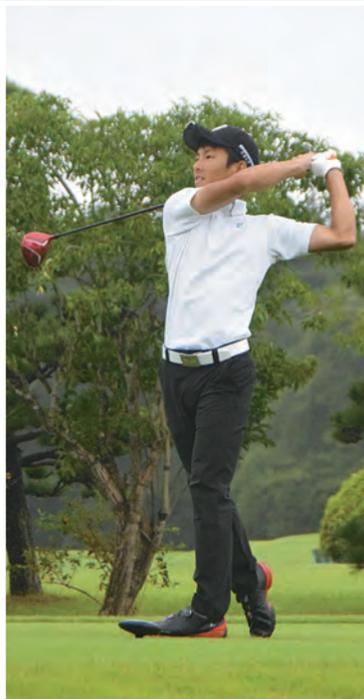
日本学生ゴルフ選手権(8月22〜25日、三重県四日市市・四日市カントリー倶楽部(7275㎡・パ172))で、榊山勝弘(商2・拓殖大紅陵高)がトップと3打差の14アンダーで2位。昨年の50位から大きく順位を伸ばした。初日を終え、7アンダーで6位タイにつけていた榊山。3日目に66をマークして首位タイに浮上

榊山、3打差の2位

し、一気に優勝争いに名乗りを上げた。全日程を終え「4日間すべてアンダーで回ることができたのは初めて。最後まで安定した良いプレーができ、結果も満足している」と納得の様子を生かし、最終日も攻めを浮かべた。(飛田)

朝日杯出場権を獲得

関東学生ゴルフ選手権(8月8〜11日、千葉市・鷹之台カントリー倶楽部(7045㎡、パー71))で、榊山が4日間トータルで276の8アンダーをマークし、トップとわずかに1打差で準優勝。10月4日打差で準優勝した。決勝は日体大・長谷川選手に力及ばず、テクニカルフォール負けしたが、試合後に「大学に入ってからけがが続いた中でうまく調整できて、今まで一番楽しめた」と話した。



最終日、1番ホールでティーショットを放つ榊山＝関東学生選手権

2000m平泳ぎ 服部 3位入賞 有終の美 自己ベスト

日本学生選手権水泳競技大会(9月1〜3日、大阪府門真市・東和薬品ラクタブドーム)で、服部友香(商4・八王子学園八王子高)が女子2000m平泳ぎで3位入賞。学生生活最後となったレースで自己ベストを更新する泳ぎを見せた。予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)



メダルを手に笑顔の服部＝日本学生選手権



後輩たちも最後まで諦めずに頑張ってくれ」と話した。男子2000m平泳ぎでは、原大輔(経営3・八王子学園八王子高)が5位となった。予選を自己ベストの2分12秒43で4位通過。「冷静さを欠いた」と言う決勝は、序盤の出遅れを取り戻そうと大きなストロークで順位を上げた。「表彰台に立ちたかった。来年は100mで決勝、200mで表彰台を目指す」と語った。(石崎愛奈・法3＝写真も)

予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)

専Sation 第18号発行

私たち「専大スポーツ」編集部が企画考案、作成を担当しているフリーペーパー「専Sation」の最新18号がこの度発行されました。巻頭特集はリーグ開幕戦にも勝利し、これからの活躍がますます期待される男子バスケットボール部です。佐々木優一監督や選手たちの今季にかける思いをぜひご覧ください。さらに、今号では野球部の高橋礼(商4・専大松戸高)の単独インタビューを初掲載。ほかにも編集部員たちが熱意を込めて作った特集が盛りだくさんです。

専Sationは生田、神田両キャンパス内に設置されているラックなどから、どなたでも手に取ることができます。キャンパスへの訪問が困難な方向けに定期購読も随時受け付け中です。詳しくは編集部のホームページをご覧ください。

予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)

予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)

予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)

予選を2分28秒25の3位で通過。「後半に巻き返していくタイプ」と話す通り、決勝はレース後半にテンポを上げてライバルを抜いていった。高校生の時にマークした自己ベストを更新する2分26秒68でゴール。「3位になれると思っていなかったのだけれどうれし」とメダルを手に喜んだ。「ベストを更新して締めくくることができた。4年間、悔しい思いもたくさんしたが諦めずに努力し、最後に結果を出せた」と語った。(飛田＝写真も)